

担当教員と主な研究分野

※教員の担当科目については『授業科目の概要』(P38・39・42・43)をご覧ください。

鏡屋 一 中/韓 修

教授・研究科長 国際学修士、博士(文学)

歴 東京外国語大学卒業、筑波大学大学院地域研究研究科修了、同歴史・人類学研究科単位取得満期退学。目白大学外国語学部長、副学長等を経て現職

研 東洋史学、特に近現代中国政治史を専攻している。政治学と歴史学とが接する領域の研究を行っている。議会政治、孔教会、文革と中国研究、現代における伝統文化の再創造など、社会倫理と政治統合の関係について調査している。

著 席宣・金春明『文化大革命』簡史』共訳・解説(1998年 中央公論社) | 『章士釗と近代中国政治史研究』(2002年 芙蓉書房出版) | 『毛毛』わが父郎小平—文革歲月(上下)』監訳・年譜(2003年 中央公論新社)

金庭 久美子 日 修

教授 博士(学術)

歴 横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了、埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程修了。立教大学日本語教育センター特任准教授を経て現職

研 1.日本語教育における聴解指導に関する研究 2.コーパスを利用した日本語研究

著 『実践日本語教育スタンダード』共著(2013年 ひつじ書房) | 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』共著(2014年 ひつじ書房) | 『生きた会話を学ぶ 中級から上級への日本語なりきりリスニング』共著(2016年 ジャパンタイムズ出版)

森 陽香 日

准教授 博士(文学)

歴 慶應義塾大学文学部卒業、同大学院文学研究科修士課程修了、博士課程単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、慶應義塾大学・実践女子大学講師等を経て、現職

研 日本の上代文学(古事記・風土記・万葉集など)を主な研究対象とし、民俗学的手法も用いながら、日本人の心のあり方を研究している。

著 「御食を得る天皇」『藝文研究』109巻1(2015年) | 『古代日本人の神意識』(2016年 笠間書院) | 『神道に於ける根本問題』『現代思想』45巻2号(2017年) | 『『風土記』から見える日本古代』『古典文学の常識を疑うII』(2019年 勉誠出版)

池田 広子 日 修

教授・専攻主任 博士(人文科学)

歴 お茶の水女子大学大学院日本語教育コース博士前期・後期課程修了。お茶の水女子大学大学院リサーチフェロー・講師、立教大学専任教育講師を経て現職

研 ①日本語教師教育に関する実証的研究。②ビジネス日本語、中国およびベトナムの日本語教育。

著 『新装版 商談のための日本語』共著(2006年 スリーエーネットワーク) | 『実践のふり返りによる日本語教師教育—成人学習論の視点から』(2017年 風書房) | 『越境する日本語教師と教師研修 実践を省察するラウンドテーブル』(2023年 くらしお出版)

石原 健 日

准教授 修士(言語学)、MSc(音声・言語処理)、PhD(言語学)

歴 上智大学大学院外国語学研究科博士前期課程修了、エジンバラ大学大学院理論・応用言語学科修士・博士課程修了。現・目白大学外国語学部准教授

研 イントネーションの普遍性と類型論・音声学と音韻論のインターフェース・ICTを活用した外国語教育。

著 Understanding programming for phoneticians through semi-automatic data extraction. *Proceedings of Phonetics Teaching and Learning Conference*. 2005. | Foreign language learning enhanced with cloud computing and mobile devices. *Proceedings of the 7th International Conference on e-Learning*. 2012.

時本 真吾 日 修

教授 博士(英語学・心理学)

歴 早稲田大学第一文学部英文学専修卒業、獨協大学大学院外国語学研究科英語学専攻博士後期課程修了、東京大学大学院人文社会系研究科心理学専門分野博士課程修了

研 英語学、理論言語学、実験心理学、神経言語学。

著 Segmentation and Selection of Appropriate Chinese Characters in Writing Place Names in Japanese. *Journal of Psycholinguistic Research*, 30 (2) , 2001. | Disambiguation of Homonyms in Real-Time Japanese Sentence Processing : Case-Markings and Thematic Constraint, *Language and Speech*, 48 (1) , 2005. | Perspective-Taking in Sentence Comprehension : Time and Empathy. *Frontiers in Psychology*. 2018.

河野 秀樹 日

准教授 Master of Art in Intercultural Relations(異文化関係学修士)

歴 University of the Pacific, USA Master's in Intercultural Relations 修了。長野県教育委員会を経て現・目白大学外国語学部日本語・日本語教育学科准教授

研 ・異文化間コミュニケーション ・多様性を内包する集団での「場」的原理による関係生成と共創

著 「異文化間における共創的關係の自己組織：在米日本人へのインタビュー調査からの考察」『異文化コミュニケーション』No.15(2012年) | 「文化的多様性への關係論的アプローチ—『場』的視座からの考察」『国際理解教育』Vol.19(2013年)

歴 主な経歴 **研** 現在の主たる研究領域・テーマ **著** 主な著書・論文

マークの説明 **日** 日本語・日本語教育専攻 **中/韓** 中国・韓国言語文化専攻 **修** 学位論文の主旨導ができる教員

修士論文の指導については、学生の研究内容により主旨導担当以外の教員も論文指導を行います。詳細はオープンキャンパスなどでお問い合わせください。

金 河守 中/韓

教授・専攻主任 文学博士

歴 筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程単位取得満期退学。日本大学講師等を経て現・目白大学外国語学部韓国語学科教授

研 韓国語と日本語の対照言語学に関心があり、両言語の本質的な側面を明らかにしようとしている。また、日本における韓国語教育の分野にも目を向けて研究を行っている。

著 「交換留学の学習効果に関する一考察—韓国大学の大学との交換留学を中心に—」『韓国語教育研究』2号(2012年) | 「韓国語学科における韓国語基礎科目教育の運営—現状と改善策」『目白大学高等教育研究』22号(2016年)

徐 寅錫 中/韓

教授 博士(文学)

歴 新潟大学大学院現代社会文化研究科修了。蔚山大学校国際交流院教授等を経て現・目白大学外国語学部韓国語学科教授

研 韓日文学の対比研究、韓国語教育に関する研究に関心を持っている。最近は、韓国文学や韓国文化を活用した韓国語教育について研究を行っている。

著 『北東アジアの社会資本』共著(2001年 北陸建設弘済会) | 「物語文学の系譜における受容と発展」『日本文化研究』10輯(2004年) | 「ドラマを活用した韓国語教育の意義と効果—ラジオドラマ「ボラムちゃんの家」を中心に—」『韓国語教育研究』2号(2012年)

外国語学部英米語学科 教授

植村 泰三 **研** アメリカ研究、国際関係論、国際法

言語文化研究科 非常勤講師

相羽 千州子 静岡県立大学言語コミュニケーション研究センター特任講師

石田 信一 跡見学園女子大学文学部教授

倉橋 圭子 目白大学社会学部兼任講師

齋藤 ひろみ 東京学芸大学教授

陳 力衛 成城大学教授

中前 吾郎 文部科学省教科書調査官

西沢 史仁 東京大学非常勤講師

小林 寛 中/韓 修

教授 文学博士

歴 筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科修了。目白大学人文学部、目白大学大学院国際交流研究科等を経て現職

研 西洋世界との接触による東アジアの伝統思想の変容を明らかにしよう、近年は近代の東アジアの儒教の変容と宗教文化との関係を究明している。

著 『기의 비교문화』共著(2006年 한울) | 「瀛環志略における日本の記述」『つくば国際大学研究紀要』17号(2011年) | 『訓民正音解例』と朱子学の陰陽五行論』『つくば国際大学紀要』22号(2016年)

朱 炫姝 中/韓

専任講師 博士(国際日本研究)

歴 韓国・慶熙大学校外国語学部卒業、韓国・高麗大学校大学院修士課程修了、筑波大学大学院人文社会科学研究科博士課程修了。東京福祉大学講師等を経て現職

研 言語教育を通じてコミュニケーション能力を習得し、文化や価値観を深く理解する第二言語習得に幅広く関心を持って研究を行ってきた。近年はICTを言語教育に導入した教授法と実践活動に取り組んでいる。

著 「タブレットを用いた韓国語会話授業におけるタスク中心教授法の分析」『バンデミック以降の韓国語教育の新たな挑戦と模索』(2023年 KONG & PARK) | 「日本人韓国語学習者の韓日翻訳ストラテジー分析と翻訳教育のための基礎研究」『韓国語教育研究』13号(2023年)

金 敬鎬 中/韓 修

教授 博士(文学)

歴 韓国中央大学校文理科大学卒業、専修大学大学院文学研究科博士課程修了。NHK文化センター講師、韓国湖南大学校日本語学科副教授等を経て現職

研 最近、主に問題意識を持っている分野は「日本における韓国語のカタカナ表記の問題」、「日本語と韓国語の翻訳の実態や問題」、歴史的な研究としては「外国人人名の漢字表記」、「中世の文献における韓国語の日本語表記」などである。

著 「音訳語“ロマン”の成立と定着過程に関する一考察」『日本語学研究』8集(2003年) | 『日本語系借用語研究』(2004年 J&C韓国啓明出版社) | 『こだわり(中級)韓国語』共著(2012年 三修社)